

## 平成19年度 「川に学ぶ全国事例発表会」開催結果概要

### ●開催概要

開催日時 : 平成20年1月18日(金) 10:00~17:10  
場 所 : 砂防会館別館 シェーンバツハ・サボ一  
主 催 : (財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター  
後 援 : 文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省  
参加人数 : 105名

### 1. はじめに

身近で自然豊かな川は、環境学習や体験学習の場としてたくさんの材料を提供してくれます。

平成14年4月から学校教育において「総合的な学習の時間」が本格的に実施され、河川環境管理財団の河川整備基金事業に新たに「川を活かした総合的な学習の時間」の実施校に対する助成枠を設けるなど、川を活かした環境学習や体験学習が実践されています。

また、14年7月から文部科学省・環境省・国土交通省が連携して当財団内に「子どもの水辺サポートセンター」を開設し、教育関係者・川で日頃から活動している経験豊かな市民の方々・河川管理者が連携して、川で安全に環境学習や体験学習が実施できるように各種の安全講習会、資機材の貸し出し、情報の提供などを行っています。

「子どもの水辺サポートセンター」では、すでに川を活かした取り組みをされている先生方やこれから取り組もうとしている先生方のお役に立てるよう、川を活かした総合的な学習の時間に取り組んでいる先進校の事例や川での安全な環境学習・体験学習のノウハウなどを盛り込んだ『川を活かした環境学習・体験学習』に関する全国事例研修会』を14年から毎年開催しており、本年度はプログラムを一部変更し『川に学ぶ全国事例発表会』として1月18日に東京で開催しましたので、その概要を報告します。

### 2. 平成19年度川に学ぶ全国事例発表会の概要

発表会のプログラムは次のとおりですが、ポイント

プログラム			
主催者挨拶	来賓挨拶	国土交通省河川局	河川環境課長 中嶋 章雅
子どもの水辺サポートセンターの支援について (財)河川環境管理財団 研究第一部長 鎌田 照章			
川に学ぶ体験活動協議会の活動について NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 事務局長 斉藤 隆			
関係省庁の取り組みについて			
・国土交通省河川局河川環境課	課長補佐	舟橋 弥生	
・文部科学省スポーツ・青少年局青少年課	専門官	山中 和之	
・環境省総合環境政策局環境教育推進室	環境教育情報係長	鈴木 弘幸	
・農林水産省農村振興局整備部地域整備課	整備指導係長	佐藤 秀憲	
事例発表	コーディネーター	子どもの水辺サポートセンター長	宮尾 博一
◆第一セッション			
・流域を流れる阿野呂川・夕張川を体験学習する総合的な学習 (北海道) 栗山町立継立中学校	担当教諭	福田 建夫	
・面瀬川に生息する魚を調査する活動を通して、 環境との関わりを深める活動 (宮城県) 気仙沼市立面瀬小学校	担当教諭	島山 友一	
・豊かな心を育てる総合学習「プロジェクト多摩川」 ～多摩川での総合学習・第4学年～ (東京都) 多摩市立連光寺小学校	担当教諭	羽澄 ゆり子	
・「桜尾小周辺の河川」における子どもたちの川に学ぶ体験活動の推進 (岐阜県) 山県市立桜尾小学校	担当教諭	福田 英治	
・学校ビオトープから琵琶湖に流れ込む川の役割について調べよう (滋賀県) 高島市立マキノ東小学校	担当教諭	清水 保彦	
・総括ディスカッション			
◆第二セッション			
・大野川や「乙津川水辺の楽校」における子ども達の川に学ぶ体験活動 の推進と指導者の育成 (大分県) NPO法人大分環境カウンセラー協会 理事長 須臾 博信			
・人と生きものとの橋渡し～水生生物の現状調査と その成果を生かした啓発活動 (福岡県) 福岡県立北九州高等学校	担当教諭	井上 大輔	
・四万十川源流環境学習プログラム「川の動きと生き物の暮らしを知ろう」 の開発と実施 (高知県) よみがえれ四万十源流の会	会長	石川 慎吾	
・重信川河口及び塩屋海岸における絶滅危惧海浜植物群落 の保全・再生活動 (愛媛県) 愛媛県立伊予農業高等学校	担当教諭	玉井 修二	
・真名川水辺の楽校でのイベントを通して参加者の河川環境に対する 意識高揚と環境学習の指導者育成 (福井県) 真名川水辺の楽校ビオフレンズ	会長	高津 琴博	
・総括ディスカッション			

となる発表について簡単に紹介します。

来賓の中嶋河川環境課長の挨拶及び国土交通省の取り組みでは、現在河川局が進めている「河川環境の整備と保全に関する政策レビュー」について河川環境教育の観点から状況をお話いただきました。

「子どもの水辺」再発見プロジェクトで連携している各省から取り組みでは、文部科学省からは、20年度より470のモデル校で1週間の自然体験に取り組む



発表会のようす

「小学校長期体験活動支援プロジェクト」について、環境省からは「エコクラブ」、農林水産省からは「田んぼの学校」などの取り組みが説明されました。

第一セッションは、小中学校の総合的な学習の時間に取り組んでいる川に学ぶ活動事例の発表です。栗山町立継立中学校福田教諭からは中学生や先生方が川での自然環境調査、川下り体験などに生き活きと取り組む様子が報告されました。気仙沼市立面瀬小学校畠山教諭からは、宮城教育大学と連携した水生生物調査やアメリカの小学校との交流、多摩市立連光寺小学校の羽澄教諭からは、市民団体や地域の方々と連携した多摩川の体験学習について、山県市立桜尾小学校の福田教諭からは、カワゲラウォッチングで取り組む環境学習の実践とこれまで取り組んできた経験に基づく環境教育の目的について力強くご発表いただきました。高島市立マキノ東小学校の清水教諭からは、保護者や地域の方々と一体となって安全管理に万全を期した2泊3日のカヌーによる琵琶湖縦断体験活動などの発表がありました。



川原で採取した植物（連光寺小学校羽澄教諭）



文部科学省の取り組み説明（山中専門官）

総括ディスカッションでは、環境学習・体験学習に取り組む上での課題や効果、子ども達の変化や保護者の反応などについて活発な意見交換がありました。特に保護者の反応では、家庭の会話のきっかけになっている、見学に来られた保護者も自然と川に入って体験するようになる、子ども達の変化では、普段発言しない子が発表会で自分の考えを訴えていた、不登校が減ったなどの具体的な報告がありました。

第二セッションは国民的啓発運動部門の一般的助成での活動からの発表でした。NPO法人大分環境カウンセラー協会須股理事長は体調不良のため欠席となりました。次の北九州高等学校井上教諭からは、全国放送でも紹介されている同校魚部のドジョウやハゼなどの調査や展示について、よみがえれ四万十源流の会石川会長からは、川漁師体験や底生生物観察などの活動について報告がありました。伊予農業高等学校2年の西川さんと玉井教諭からは、産業界、大学、市民団体等と連携しながら測量、地下水調査、清掃活動などを通じた河口と海岸における絶滅危惧海浜植物群落の保

26

**環境教育の目的は、**

- ①環境問題を解決すること。
- ②新たな環境問題が起きない社会をつくること。

**体験型環境教育で、子どもたちの姿が、学校が、変わる。**

- ①子どもたちが生き生きとし、自ら考え、主体的に活動するようになる。児童生徒会が活発になる。(学力の向上)
- ②保護者や地域の方々の協力、関連機関との連携など、開かれた学校につながる。(交流会、発表会)
- ③家族の絆が強まり、学校との距離が近くなる。(おもいやり、やさしい心で生活)
- ④学校が落ち着く。(不登校の児童生徒も学校に出てくるようになる。)
- ⑤豊かな心が育つ。(文学や芸術が育つ＝文化)

≪私の経験から≫

環境学習の目的（桜尾小学校福田教諭）

## 「言葉や体験」で伝える活動①

＜ゲストティーチャー＞

地域の小中学校に招かれ、魚部の活動や水生生物の話と一緒に地域の川の調査を行う活動。

戸切小学校4年生・2007秋



魚部の活動（北九州高等学校）



発表する西川さん（伊予農業高等学校）

全・再生活動について、真名川水辺の楽校ビオフレンズ高津会長からは、子ども向けの体験活動、草刈り、水生動植物のモニタリング調査などの活動状況について発表がありました。

総括ディスカッションでは、年々資料館を利用する学校が減ってきており、どのようにすれば利用者が増加するかなどの質問がありました。現場の先生方からは、総合的な学習が開始された平成14年に比較すると学校での環境学習・体験学習は下火になってきている、学習指導要領の見直しで体験活動に充てることのできる時間数が減るのではないかと、などの不安の声がありました。

### 3. おわりに

6回目を迎えた発表会は、小中学校の総合的な学習の時間での取り組みと市民団体や高等学校が独自に取り組む活動の2本立てで開催しました。全国から、教育、市民団体、官公庁、企業関係などから環境学習等に関心の高い105名の参加がありました。

熱意溢れる活動状況の報告や活発な意見交換がなされる一方で、環境・体験学習を取り巻く状況の変化について危惧される声も聞かれました。

今後も川を活用した環境学習・体験学習を推進していく上で大いに参考になる発表会となりました。

おわりに、お忙しい中ご発表頂いた皆様、全国からご参加された皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。



質疑応答の様子